

東京女子高等師範學校概要

昭和九年七月現在

一 教育要旨及生徒心得

一 東京女子高等師範學校教育要旨

本校ハ女子教育ノ淵源ニシテ風教化育ノ依テ生スル所ナレハ殊ニ教育ニ關スル勅語ノ趣旨ヲ奉體シテ其ノ實效ヲ舉ケンコトヲ務ムヘシ乾坤德ヲ異ニシ陰陽行ヲ同シクセス本校ノ教育ハ一ニ女子ノ性ニ順ヒテ之ヲ施スヘシ德義ヲ以テ教化スルハ教育ノ骨髓ナリ本校生徒ハ他日人ノ師表母儀タルヘキ重任ヲ負フモノナレハ最モ品行ノ端正志操ノ廉潔ヲ尙ハシムヘシ且ツ謙讓ノ美德ト進取ノ氣象トハ偏廢スヘカラス二者其ノ宜シキヲ得シムヘシ生徒心身ノ關係ニ注意シテ其ノ健康ヲ増進セシメ適實ナル教授ヲ施シ生徒ヲシテ隨テ學ヘハ隨テ行ヒ所謂知行合一ヲ期セシムヘシ

二 東京女子高等師範學校生徒心得

一 本校生徒ハ卒業ノ後國家教育ノ重任ニ當ルヘキ者ナリ故ニ特ニ教育ニ關スル勅語ノ大旨ヲ奉體シ德ヲ修メ業ヲ勵

ミ以テ其ノ本分ヲ盡サンコトヲ期スヘシ

一 常ニ貞淑勤儉ヲ旨トシ聊カモ虛偽浮薄ノ言行ヲナス可ラス言ハ衷心ヨリ發シ行ハ誠意ヨリ出テ女子ノ師表タルヘキ德操ヲ備ヘンコトヲ務ムヘシ

一 校規學則ヲ守ルハ勿論時々ノ訓諭命令ニ從ヒ尊長ヲ恭敬シ朋友ヲ信愛シ常ニ禮節ヲ正シクシテ師弟ノ義長幼ノ序ヲ明ニスヘシ

一 平素衛生ニ注意シテ眠食勞逸ノ度ヲ節シ以テ身體ノ健康ヲ増進センコトヲ務ムヘシ

二 規 則 (抄)

東京女子高等師範學校規則

第一章 本 科

第一節 總 則

第一條 本校ハ女子師範學校、師範學校女子部及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成シ兼テ普通教育及幼兒保育ノ方法ヲ研究スルヲ以テ目的トス

第二條 學科ヲ分チテ文科、理科、家事科トス

第三條 各學科ノ修業年限ハ四箇年トス

第四條 生徒ノ定員ハ凡四百五十人トス

第二節 學科課程及教授時數

第五條 文科ノ學科目ハ修身、教育、國語、漢文、歷史、地理、外國語、音樂、體操トス

第六條 理科ノ學科目ハ修身、教育、數學、物理、化學、植物、動物、生理及衛生、礦物及地質、外國語、音樂、體操トス

第七條 家事科ノ學科目ハ修身、教育、家事、裁縫、理科、圖書、手藝、外國語、音樂、體操トス

第八條 各學科ノ學科目中音樂ハ學習困難ナリト認メタル生徒ニハ之ヲ課セサルコトアルヘシ

第九條 文科ノ各學科目ノ程度ハ左ノ如シ

修身

修養論 教育ニ關スル勅語 戊申詔書及國民精神作興ニ關スル詔書ノ述義 國民道德論 倫理學 法制及經濟

作法

教育

心理學 論理學 教育學 教育史 教授法 保育法 教育法令及學校管理法 學校衛生 教育實習

國語

講讀 習字 文法 作文 作歌 文學史 文學概論 國語學概論 言語學概論

漢文

講讀 復文

歷史

日本史 東洋史 西洋史

地理

地理學通論 日本地誌 外國地誌 實習

外國語(英語)

講讀 文法 作文

音樂

單音唱歌 重音唱歌

體操

體操 遊戲及競技 教練 體育概論

第十條 理科ノ各學科目ノ程度ハ左ノ如シ

修身

教育

文科ニ準ス

數學

算術 代數 幾何 三角法 解析幾何 微分積分 數學雜論 演習

物理

力學 物性 音響學 熱學 光學 電氣磁氣學 實驗

化學

無機化學 有機化學 理論化學大意 實驗

植物

形態 組織及細胞 生理 遺傳 分類 生態 生物學史 應用 園藝 實驗

動物

分類 形態 組織 發生 生理 生態 應用 實驗

生理及衛生

營養生理 運動生理 神經生理 衛生學通論

礦物及地質

礦物通論 礦物各論 地殼ノ構造及發達 實驗

外國語（英語）

音樂

體操

文科ニ準ス

第十一條 家事科ノ各學科目ノ程度ハ左ノ如シ

修身

教育

文科ニ準ス

家事

纖維及織物 衣類整理法 食物及營養 料理法 住居 養老 育兒 看護 家事經濟 家計簿記 家事概論

理科

生理學 物理學 化學 生理及衛生 園藝 實驗

裁縫

和服裁縫 洋服裁縫

圖畫

自在畫 考案畫

手藝

編物 刺繡

外國語(英語)

音樂

體操

文科ニ準ス

第十二條 文科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ル

學 科 目	學 年			第 四 學 年	
	第一學年	第二學年	第三學年	第一、二學期	第三學期
修 身	二	二	二	二	實 習 三〇
教 育	二	二	三	四	
國 語	七	七	(四)五	(六)四	
漢 文	三	三	三	三	
歷 史	五	五	(二)五	(三)三	
地 理	四	四	(二)三	(三)三	

外 國 語	三	三	[一]三	[一]三	
音 樂	二	二	一	一	
體 操	三	三	三	三	
計	三一	三一	(三)一	(三)一	三〇

第三學年、第四學年ノ國語(四)(六)ト歴史(二)(三)及地理(二)(三)トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ選修セシム第三學年、第四學年ノ英語各(一)ハ隨意科目トス

第十三條 理科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ル

學 科 目	學 年			第 四 學 年	
	第一學年	第二學年	第三學年	第一、二學期	第三學期
修 身	二	二	二	二	實 習 三〇
教 育	二	二	三	四	
數 學	五	五	(六)三	(一)三	
物 理	四	三	(二)三	(七)	
化 學	四	三	(三)二	(六)	
植 物	三	三	(三)二	(七)	
動 物	三	三	(三)二	(六)	

生理及衛生	礦物及地質	外國語	音樂	體操	計
1	2	3	2	3	31
1	2	3	2	3	31
(1)	(1)	(1)	1	3	(111)
2	1	(1)	1	3	(111)
30					30

第三學年、第四學年ノ數學(六)(一三)ト物理(二)(七)及化學(三)(六)ト植物(三)(七)及動物(三)(六)トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ選修セシム物理及化學ヲ選修スル者ニ對シテハ第三學年ノ礦物及地質(一)ヲ必修セシム

第三學年、第四學年ノ英語各(一)ハ隨意科目トス

第十四條 家事科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ル

學科 目	學年	第 四 學 年			
		第一學年	第二學年	第三學年	第一、二學期 第三學期
修身	2	2	2	2	2
教育	2	2	2	3	4
家事	2	2	4	(四七)	(五九)
裁縫	7	7	7	(四五)	(五五)
實習					30

理 科	圖 畫	手 藝	外 國 語	音 樂	體 操	計
6	2	2	3	2	3	31
6	1	2	3	2	3	31
4	1	1	(1)	1	3	(111)
1	1	1	(1)	1	3	(111)
1						30

第三學年、第四學年ノ家事(四)(五)ト裁縫(四)(五)トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ選修セシム

第三學年、第四學年ノ英語各(一)ハ隨意科目トス

第三、四、五節(省略)

第六節 教育實習

第四十五條 第四學年第三學期ニ於テ各學科生徒ヲシテ附屬學校幼稚園ニ於テ教育實習ニ從事セシム
教育實習ニ從事スル生徒ヲ教生ト稱ス

第四十六條 教生ハ教育實習中附屬學校幼稚園主事ノ指揮監督ヲ受ク

第四十七條 附屬學校幼稚園主事ハ教育實習細則ヲ定メ學校長ノ認可ヲ受クヘシ

第二章 研 究 科

第四十八條 各學科ノ學科目中一科目又ハ數科目ヲ專攻セムトスル者ノ爲ニ研究科ヲ置ク

第四十九條 研究科ノ修業年限ハ一箇年以上二箇年以下トス

第五十條 研究科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ本校卒業者又ハ試験ニ依リ之ト同等以上ノ學力ヲ有スト認メタル者タルヘシ

第五十一條 研究科ニ入學セムトスル者ハ別ニ定ムル様式ニ依ル入學志願票、履歷書及身體檢查書ヲ指定ノ期間内ニ差出スヘシ 但本校卒業後直ニ入學セムトスル者ニ在リテハ身體檢查書ヲ要セス

第五十二條 入學志願者ノ學力、人物及研究學科目等ヲ考查シ適當ト認メタルトキハ教授設備ニ差支ナキ場合ニ限り入學ヲ許可ス

第五十三條 第十五條乃至第十七條、第二十二條乃至第二十四條、第二十八條乃至第三十三條、第三十五條、第三十六條ハ之ヲ研究科生徒ニ適用ス

第五十四條 研究科生徒ハ學校長ノ指定スル指導教官ニ就キ研究ニ從事スヘシ

第五十五條 研究科生徒ハ修業期間ノ終ニ於テ研究報告ヲ差出スヘシ

第五十六條 前條ノ報告書ヲ審査シ合格ト認メタルトキハ修了證書ヲ授與ス

第三章 專 修 科

第五十七條 女子師範學校、師範學校女子部、高等女學校教員ノ缺乏ヲ充ス爲ニ特別ノ必要アル場合ニ於テハ專修科ヲ置クコトアルヘシ

第五十八條 專修科ノ學科目及其ノ程度並修業年限募集人員等ハ其ノ都度之ヲ定ム

第五十九條 第十五條乃至第三十三條、第三十五條乃至第四十二條、第四十五條、第四十六條ハ專修科生徒ニ適用又ハ準用ス

第六十條 全課程ヲ卒ヘタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス（以下省略）

第四章 選 科 生

第六十一條 女子師範學校、師範學校女子部、高等女學校教員タルノ志望ヲ有スル女子ニシテ各學科ノ學科目中一科目若クハ數科目ヲ選ヒテ學修セムトスル者アルトキハ教授上差支ナキ場合ニ限り選科生トシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第六十二條 選科生ニハ何等ノ科目ヲ選フニ拘ラス修身及教育ヲ兼修セシム

第六十三條 選科生トシテ入學スルコトヲ得ル者ハ品行方正身體健全ニシテ所選科目ノ學修ニ堪フト認メタル者タルヘシ

第六十四條 選科生トシテ入學セムトスル者ハ別ニ定ムル様式ニ依ル入學志願票履歷書ヲ指定ノ期間内ニ差出スヘシ

第六十五條 選科生ノ在學期間ハ四箇年トス 但特別ノ事情アルトキハ本文ノ期間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

東京女子高等師範學校保育實習科規則

- 第一條 幼稚園保姆タラムトスル志望ヲ以テ保育ノ方法ヲ實習セムトスル者ノ爲ニ保育實習科ヲ設ク
- 第二條 保育實習科ノ修業年限ハ一箇年トス
- 第三條 保育實習科生徒ノ定員ハ凡二十人トス
- 第四條 保育實習科ノ學科目ハ修身、教育、保育、理科、圖畫、手工、音樂、體操トス
- 第五條 各學科目ノ程度ハ左ノ如シ

生徒心得 道德要領

教育

教育學 兒童心理 教授法及管理法ノ大要

保育

育兒法 保育法 乳兒幼兒保護事業 要 保育實習

理科

自然研究 植物栽培 動物飼育

圖畫

自在畫 考案畫

手工

紙細工 粘土細工 きびがら細工 簡易ナル木工

音樂

單音唱歌 重音唱歌 樂器使用練習

體操

體操 遊戲及競技

第六條 各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ル

學 科 目	每 週 教 授 時 數	學 科 目	每 週 教 授 時 數	學 科 目	每 週 教 授 時 數
修 身	一	教 育	三	保 育	一〇四
理 科	三	圖 畫	二	手 工	二
音 樂	三	體 操	二	計	三〇

第七條 學年ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル(以下省略)

外國人特別入學規程細則

第一條 外國人ニシテ文部省直轄學校外國人特別入學規程ニ依リ入學ヲ志望スル者アルトキハ設備上差支ナキ場合

ニ在リテハ本校各科及附屬高等女學校專攻科聽講生トシテ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 第一條ニ依リ入學ヲ許可スヘキ人員ハ毎年三月末之ヲ定ム

第三條 入學志望者ニ對シテハ試驗ヲ以テ相當ノ學力ヲ認定スヘキモノトス

第四條 入學志願者ハ入學檢定料トシテ金參圓ヲ納付スヘシ 但既納ノ檢定料ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス

第五條 聽講生ハ授業料トシテ本校各科附屬高等女學校專攻科各部共ニ一學年金四拾圓ヲ每學年四月十五日（休日ナラハ繰下ク）ニ納付スヘシ 但明治四十四年文部省令第十六號ニ依リ入學シタル者ニハ授業料ヲ減額シ又ハ徵收セサルコトアルヘシ

第六條 半途退學其ノ他如何ナル事情アルモ既納ノ授業料ハ返還セサルモノトス 但全學年間休學ヲ命シタル場合ニハ之ヲ徵收セス

第七條 聽講生在學中ハ特ニ定メラレタル本校教官ノ指揮監督ヲ受タヘキモノトス

第八條 聽講生ニシテ成規ノ課程ヲ修了シ成績佳良ト認メタル者ニハ修了證書ヲ授與スヘシ

第九條 本校諸規則ニシテ本則ニ牴觸セサルモノハ聽講生ニ適用ス

附 則

第十條 本則ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

聽講生編入規定

第一條 本校各學科聽講生ニシテ其ノ全課程ヲ履修シ既往各學年ノ成績優良ナル者ハ願ニ依リ第三學年又ハ第四學年ノ始ニ於テ之ヲ本科ニ編入スルコトアルヘシ

第二條 本校各學科聽講生ニシテ其ノ課程中ノ一科目又ハ數科目ヲ履修シ既往各學年ノ成績優良ナル者ハ願ニ依リ

第三學年又ハ第四學年ノ始ニ於テ之ヲ選科生ニ編入スルコトアルヘシ

第三條 前二條ニ依リ本科又ハ選科生ニ編入シタル者ノ授業料ニ付テハ本校規則第六十七條及第六十八條ヲ準用又ハ適用ス 但朝鮮人及臺灣人ニシテ本科ニ編入シタル者ノ授業料ハ此ノ限ニ在ラス

三 獎 學 資 金

一 獎學寄附金管理規程

第一條 獎學寄附金ニシテ文部大臣ヨリ交付セラレタル現金ハ株式會社三井銀行當座預金トシ又ハ有價證券ハ中央金庫ニ保管ヲ託スルモノトス 但預入人ハ學校長ノ名義トス

第二條 獎學寄附金ノ銀行預金通帳及有價證券ノ中央金庫保管證書ハ當校備付ノ金櫃ニ藏置シ會計主任之ヲ保管ス

第三條 有價證券ノ利子ハ第一條ノ預金トス

第四條 預金ノ支出ヲ要スルトキハ當該銀行ヨリ預金ヲ引出シ現金ヲ以テ其ノ受取人ニ交付ス

二 獎學資金

明治四十五年六月三日 昭憲皇太后本校へ行啓アラセラレ職員生徒ニ金五百圓ヲ賜フ本校カ 陛下ノ行啓ヲ辱ウシタルコト實ニ十一回ニシテ其ノ都度ニ於ケル陛下賜ノ金品ハ職員生徒ノ協議ヲ經テ或ハ本校及附屬校園ニ分配シ有益ナル機械器具ニ替ヘ又ハ校歌タル 陛下ノ御詠ヲ謹寫セシメ之ヲ分チ戴キテ以テ永ク記念シ奉リタル事アリ故ニ今回亦一般ニ諮リ將ニ先例ニ倣ハントセシニ何ソ圖ラン其ノ年七月三十日 明治天皇俄ニ御登遐アラセラレ 昭憲皇太后ノ本校行啓ハ其ノ時ヲ以テ最終ノ御事トナレルニ依リ前記陛下賜金處理ノ方法ヲ更メ後之ヲ恩賜獎學資金トシテ永久ニ記念シ奉リ其ノ利子ヲ以テ獎學ノ資ニ充テムトシ其ノ手續ヲ了シタリ而シテ右ノ外有志ノ寄附ニ係ル獎學寄附金アリ昭和九年五月末日現在高左ノ如シ

金六千五百一十一圓七十六錢

内 譯

金五百四十圓八十四錢 (五百圓)	恩 賜 獎 學 資 金
金百六十六圓六十一錢 (百圓)	黑 田 獎 學 寄 附 金
金八十三圓三十一錢 (五十圓)	山 本 獎 學 寄 附 金
金九百一圓七十二錢 (有價證券額 面五百圓)	今 村 獎 學 寄 附 金
金百八十八圓三十二錢 (同百圓)	第五回理科卒業者記念獎學寄附金
金二百十六圓七十九錢 (同四十圓)	杉 本 獎 學 寄 附 金

金二千二百八十八圓四十八錢 (同二千圓)	杉村記念獎學寄附金
金千六十五圓五錢 (千圓)	開校五十年記念恩賜獎學資金
金千六十圓六十四錢 (千圓)	喜 多 見 獎 學 寄 附 金

三 獎學資金ニ關スル規程

第一條 經理委任ニ屬スル獎學資金ヨリ生スル利子ハ本規程ニ依リ使用スルモノトス 但寄附者ヨリ用途ヲ指定シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二條 獎學資金ヨリ生スル利子ハ適宜左ノ各號ノ使途ニ充ツルモノトス

- 一 本校及附屬校園ニ於テ運動其ノ他特ニ獎勵ヲ要スル事項ニ關スル施設ヲ爲スコト
- 二 本校生徒中品行方正ニシテ學業優等ノ者ニ學資ノ補給ヲ爲スコト

第三條 前條第二號ニ依ル學資ノ補給ハ之ヲ一時ニ爲シ或ハ期間ヲ定メテ毎月之ヲ爲ス 但期間ヲ定メテ學資ノ補給ヲ爲スモノニ對シ其ノ月十六日以後ニ於テ補給ノ命令ヲ發シタル場合ハ其ノ月ニ限り月額ノ半額トス

第四條 毎月ノ學資補給ハ其ノ月二十三日(七月ニ在リテハ五日、休業日ナレハ繰下ク)ニ之ヲ爲ス 但半途退學者、卒業者、死亡者ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第五條 學資ノ補給ヲ受クル生徒ニシテ休學ヲ命セラレタル場合ハ其ノ翌月ヨリ休學期間補給ヲ停止ス